



放送大学での卒論は
趣味の俳句から。
テーマ「虚子と女」



現在取り組み中の宮澤賢治に関する本



エリザベト音楽大学のオリジナル・テキスト

エイチ・キャンパス

えいち
「H」……それは“英知”すぐれた知恵であり、“叡智”深遠な道理をとりうる優れた才知でもある。生涯学習のある暮らし、そんな広島の“H(えいち)”をお届けするコーナー。

人生「H」APPY人

「女に学問はいらん」という夫、そして5人の子ともと大所帯の世話に明け暮れ、なかなか自分の時間を持つことができなかった平山さんは、平成元年(1989年)、たまたま誘われた留学生との交流を深めるボランティア活動に参加して、視野が広がりました。そして男女共同参画推進の人材養成

もともと勉強は嫌いな方だったという平山さん。今はどんどん学びたいことが膨らんでいるそうです。そんな平山さんに、「学ぶことへの熱い思いを、お聞きしました。」

社会人学生 平山英子さん(67)



思い出の放送大学卒論、後ろの写真は亡夫

講座「ひろしま女性大学」に参加、学歴やキャリアに関係なく多種多様な人たちと横一線に並んで勉強することの面白さを実感し、「生涯学習」という言葉に出会いました。
「私でも学んでいいんだ」と思えるようになった時、「放送大学」のことを知ります。好きな科目を選んで学べる制度に、「これならできるかも」と入学を決意、社会人学生の第1歩を踏み出しました。学資を得るために児童館の臨時指導員という仕事も持ちました。家事とは違い、頑張ればはっきり評価の出る試験に夢中になり、気が付いてみると、卒業に手が届くほどの

安田女子大学大学院日本文学専攻博士前期課程在籍、放送大学全学科履修生、同大学院文化科学研究科科目等履修生としての学生の顔を携え、5人の子どもの母、5人の孫のおにやさんでもある平山さん。

生涯学習に出合つて、知った。
「知らないということとは、
何ともつまらないことだ」

講座「ひろしま女性大学」に参加、学歴やキャリアに関係なく多種多様な人たちと横一線に並んで勉強することの面白さを実感し、「生涯学習」という言葉に出会いました。

「私でも学んでいいんだ」と思えるようになった時、「放送大学」のことを知ります。好きな科目を選んで学べる制度に、「これならできるかも」と入学を決意、社会人学生の第1歩を踏み出しました。学資を得るために児童館の臨時指導員という仕事も持ちました。家事とは違い、頑張ればはっきり評価の出る試験に夢中になり、気が付いてみると、卒業に手が届くほどの

講座「ひろしま女性大学」に参加、学歴やキャリアに関係なく多種多様な人たちと横一線に並んで勉強することの面白さを実感し、「生涯学習」という言葉に出会いました。

講座「ひろしま女性大学」に参加、学歴やキャリアに関係なく多種多様な人たちと横一線に並んで勉強することの面白さを実感し、「生涯学習」という言葉に出会いました。

講座「ひろしま女性大学」に参加、学歴やキャリアに関係なく多種多様な人たちと横一線に並んで勉強することの面白さを実感し、「生涯学習」という言葉に出会いました。



リスザルのちんちゃんとは
大の仲良し



耳トレニングのひとコマ



音楽を通して、自分の思いを人に伝え、分かち合える喜びは大きい。
自分で表現することを楽しみがある
エリザベト音楽大学学事部長・付馬音楽園副園長
土屋 一郎さん(61)

音楽家に必要な総合力を身につけるため、大学で開発したシステムに沿った体験型講座です。対象は、基礎的な楽譜の読み方を理解している人。7月9日から全6回を通して、楽器やゲームを使った、楽しみながらのトレーニングが行われています。

音楽家の 耳トレニング エリザベト音楽大学

きいもの。それには、まず自分の思いを、音楽で表現する方法を身につけてみてはどうかでしょう？音楽の可能性を体験してもらいたいと思います。

身近なITを理解する 広島国際大学



受講後、質問をされる熱心な方も多い

今やIT(情報通信技術)は生活のあらゆる分野に溶け込み、なくてはならないものになっています。その一方で、どこかなじみにくい感覚を覚える人も多いのではないのでしょうか。そんなITをひもとく講座が、6月7日から全5回行われました。第一線の専門家が、分かりやすく実習を交えて解説しました。

広島国際大学 受講体験者の声

「夢は自分発信」

「face to face」で広がる私の世界」

高橋アヤコさん(62)



かつては、携帯電話さえも拒否反応を起こしていたデジタル嫌い。時代の流れでワープロから始め、少しずつできるうちに、でも、なかなか理論まで学ぶ機会がなかったのが、市民交流プラザでの公開講座は最適でした。一人で本を読んで勉強するよりも、人と人がつながり合って目で確かめる方が、覚えやすいんだなと実感！

「新しい事に挑戦したい」

村上司さん(70)



専門家から最先端の話が直接聞けるので、おぼろ気ながら理解していたものに合点がきました。知らないものを知りたいという好奇心が強い性格なので、こうした知る場がたくさん提供されているのは、うれしいですね。

単位を取得していました。

「せつかくだから、大学を卒業しよう」そうなるも、嫌いな英語も勉強しなければなりません。毎朝6時からラジオ放送を2年間聞き続けて、何とかクリア。趣味の俳句を深めた卒論を仕上げたのは、入学から9年目でした。その後も、大学院とは違うもののなか知りた、研究をしてみたい、児童心理も学びたい、とその情熱はとどまる事を知りません。

そんな平山さんも当初は、「今更勉強して何になる」「できっこない」という周囲の反応に、気の重くも少しは、隠れて勉強していたと言います。そして今、夫の看取りと自身の大病を経て、「私の人生を楽しまたい！勉強がしたい！」という熱い思いがますます湧いてきたそうです。

現在、安田女子大学大学院で、「宮沢賢治文語研究」を通して「人間的にどう生きるべきか」というテーマに取り組まれています。平山さんにとって生涯学習とは、本当の自分に出会うことであり、人生を豊かに生きることです。「知らないということは、何ともつまらないこと」ですから。